

令和2年度第2回堺市博物館協議会会議録

日時

令和3年3月19日（金曜）午後2時から4時まで

場所

堺市博物館 地階ホール

出席者

協議会委員

中村浩会長、岩間香副会長、伊藤廣之委員、谷晃委員、土橋ひとみ委員、森範子委員、山中浩之委員（欠席：足立久美子委員、菅原真弓委員、吉川真一委員）

事務局職員

須藤館長、岩本副館長、増田課長、神原参事 ほか

議事録

司会：それでは、ただ今から令和2年度第2回堺市博物館協議会を開催します。

本日の出席者は委員10名中6名です。なお、谷委員が遅れて参加される予定です。従いまして、過半数の出席をいただいておりますので、堺市博物館協議会規則第4条第1項により協議会が成立していることをご報告いたします。

なお、現在傍聴の希望者が1名おられますので、堺市博物館協議会規則第5条第1項により傍聴を認めてよろしいでしょうか。

全委員：異議なし。

司会：ありがとうございます。それでは、傍聴を認めます。では、須藤館長よりご挨拶申し上げます。

館長：皆さん、こんにちは。本日は令和2年度第2回目の堺市博物館協議会にあたります、ただ今から開催させていただきます。中村会長、岩間副会長をはじめ、委員の先生方におかれましては、年度末の何かとお忙しい時期かと思いますが、その上コロナの収束がまだまだの状況におかれまして、ご出席いただきまして、ありがとうございます。当協議会は、毎回申しますが、堺市博物館の活動と事業展開、活性化のために、それぞれの分野の第一線で御活躍しておられる先生方から、専門的な且つ忌憚のない御意見を伺うことを目的といたしております。これまでには、広報のやり方や当館の茶室の利用の仕方、あるいは前回にはレプリカの製作・展示、それから保存のあり方などについても先生方から建設的な意見をいただきまして、いくつかの先生方のご意見は実現させていただいております。

さて、世界遺産登録1周年、それから本館の創設40周年を記念しまして、当館の展示コーナーの中の特に古墳・古代コーナーのリニューアルを行うために2月1日から休館にしておりましたが先週の土曜日13日に全面オープンいたしました。それと同時に特別展「海を越えたつながり」もスタートしました。

昨年度の3分の1しか本年度は入館者を迎えることはできませんでしたけれども、これを期にオンラインミュージアムなどで多くの方々に対する広報・周知に努めてまいりました。当館の展示場の生まれ変わりを機に、より多くの入館者を迎え入れることができるように努力しております。

本日の議案は、この生まれ変わった展示場を先生方にご覧いただきその後で評価をお聞きすると言うことしておりますので、よろしくお願ひします。本日の協議会は2時間と時間がかぎられておりますけれども、本館の活動・運営に関しましていろいろなご意見や特にご批判をいただきまして、私たちは今後も館の運営改善に向けて頑張っていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。本日は、どうもありがとうございます。

司会：それでは、議事の方に入らせていただきます。ここから中村会長に議事進行をお願ひいたします。

会長：それでは、議事を説明させていただきます。今日は館長が仰ったように、新しくリニューアルした本館をご案内していただけるということなので非常に楽しみにしております。それで忌憚のない御意見を賜れますれば幸いです。

それでは、議事の1件目報告でございます。1番目は令和2年度第1回博物館協議会をふりかえり、2番目は令和2年度展示事業・体験学習事業について、3番目は令和3年度展示事業計画等について、でございます。これは事務局から伝えていただきます。

課長：それでは、ただいまより報告をさせていただきます。学芸課長の増田でございます。よろしくお願ひいたします。着座のまま説明させていただきます。よろしくお願ひいたします。まず、それでは報告1、令和2年度第1回堺市博物館協議会ふりかえりについて説明させていただきます。資料1をご覧ください。第1回協議会は昨年10月23日に行いました。議事としましては、まず報告として①令和元年度事業報告と令和2年度の組織体制および事業について、②新型コロナウイルス感染症対応にかかる博物館の取り組みについて、③百舌鳥古市古墳群ガイダンス展示製作設置業務にかかる博物館リニューアルについて報告させていただきます。このうち令和元年度事業報告と令和2年度の組織体制および事業については、皆様方から資料1の3番にございますようなご意見をいただいております。こちらのようなご意見をいただきましたが、現状では、まず資料収集に関しましてはなかなか候補資料がない場合は、予算要求が難しい状況と言うのは続いております。前回説明させていただきましたさかい利品の杜の資料購入に関する予算要求に関しましては、やはりコロナの影響が大きく、こちらの方は来年度は認められなかったという状況になっております。オンラインミュージアムにつきましては、市全体のハード面の整備が遅れております。こちらの博物館の方もこういった通信設備ができておりませんので今後の課題としまして現在YouTubeなどで展示会の予告をするといった形で見ていただき、そして来館していただくというような形で、しばらくは運用していきたいと考えております。

また、案件として取り上げさせていただきました「博物館における複製品のあり方」につきましては資料1の別紙に意見をまとめさせていただきます。そういった意見を踏まえまして、今回のリニューアルに関しましても対応させていただきます。

続きまして、令和2年度展示事業・体験学習事業についてご説明いたします。資料2をご覧ください。博物館の現在までの来館者数です。2月末現在で茶室利用者を含めた全来館者は77,942人となっております。昨年と比較いたしまして約3分の1という数になっております。資料3をご覧ください。展示会毎の観覧者数を記載しております。観覧者数とは実際に展示場で観覧された方でありまして、来館者数とはロビーの百舌鳥古墳群シアターやグッズコーナーや地階の体験学習コーナーを無料でご利用いただいた方も加えた数字となっております。

それでは、資料4をご覧ください。体験学習会の参加人数をまとめています。今年度は4回開催しま

した。感染症拡大防止のために開催出来なかった会もありましたが、128名の参加を得ています。また、今まででは博物館を出ましてアウトリーチ活動を行っていましたが、コロナ感染症拡大防止で行っていません。毎年開催しておりますミュージアムパス&スタンプラリーですけれども、こちらの方も感染症拡大防止のためにスタンプラリーは実施しませんでした。記念品の方も当館に来館した方に限定500名に缶バッジを配るという方法に変更しました。保護者の方を含めて2,225人のご利用を得ました。こちらの方も昨年度に比較しますと約3分の1の参加者数となっています。

次に令和3年度の展示事業計画等について説明させていただきます。資料6をご覧ください。来年度の堺市博物館およびさかい利品の杜での展覧会スケジュール(案)をあげています。来年度の特別展に関しましては、今年度3月13日から開催しております。年度を跨いで5月9日まで「海を越えたつながり―倭の五王と東アジア―」を開催いたします。企画展では5月29日から7月11日まで、当館の館蔵資料であります「聚楽第行幸図屏風」の修理記念として「豊臣秀吉と堺」を開催します。聚楽第行幸図屏風は天正16年(1588)に豊臣秀吉が後陽成天皇を聚楽第に迎えた、この行幸の様子を描いたもので聚楽第を描いた数少ない絵画資料でございます。館蔵の「聚楽第行幸図屏風」は平成30年度に解体修理をいたしました。今回は修理後の初公開となります。修理により得られました新たな知見を紹介するとともに改めて秀吉と堺の関係を考える展覧会となっております。7月から10月初めにかけては、まだ仮称でございますけれども「堺敷物ものがたり」を開催し、10月から11月にかけては「重要文化財指定記念 和田家文書からよみとく―南北朝期の和泉・河内―」を、令和4年1月から2月にかけては、例年のように「むかしの暮らし」を開催いたします。後は常設展示室の一面でスポット展として、7月から9月にかけて「巨大古墳の実像―仁徳・応神・履中天皇陵古墳とその陪塚」を開催します。さかい利品の杜では学芸課の企画展としまして5月から6月にかけて「みだれ髪120年 晶子を育んだ堺の文学」、11月から令和4年1月にかけては「与謝野夫妻の旅」こちらも仮称でございますけれども、展覧会を開催いたします。これ以外にもさかい利品の杜では堺市文化課が行います展覧会、指定管理団体でございます堺市文化振興財団が行います展覧会を記載しております。

なお、堺市博物館の企画展「和田家文書からよみとく」では図録を発行する予定でございます。

一応、企画展などの説明は以上でございます。

会長：ありがとうございました。今の報告①から③までの説明に関しまして、何かご質問等ございませんでしょうか。はい、どうぞ。

山中委員：この令和2年度の博物館の来館者数という資料では、全来館者数が77,000人程度、そして観覧者の総計が33,000人程、この全来館者と観覧者、つまり観覧者と言うのは博物館そのものの見学者ということですね、入場料を払っている。ここの全来館者と観覧者との数字の差がとても大きいと感じるのですが、これはロビーに入られてそこから入館券を求められずにロビーだけで立ち去られたということでしょうか。

課長：そうですね。こちらの地階の方の体験学習コーナーやシアターだけをご利用になられたということですね。

山中委員：それは、そういう方々の人数がとても多すぎるような気がするんですけども、これはシアターを見ればもう満足されるということでしょうか、館の展示そのものを見ようという気持ちを持たれない方が多いということでしょうか。どうでしょうね。ちょっと気になるんですけど、この数字の大きな違いが。ここで、何か考えられていることがもしございましたら、ここまで入って来ておられる

訳ですから、その方々が何故、館の中まで入って見学されないのかということがとても不思議に思えるのですが、どうでしょう。

会長：先生（館長）のところはいかがでしょうか

館長：民博に在職しておりましたけれども、こんなものです。

山中委員：そうなんですか。

館長：乖離が甚だしくて、例えば20万人入っても観覧者はおそらく10万人はいかないと思います。民博の場合は招待券をたくさん配っていますし。当館は違いますけれども。ここもそうなんじゃないかと思いますよ。シアター見るとかワークショップに来て地下ロビーのフロアだけでお帰りになる方が多い、ですから関心・興味の対象が展示場に向かないという、これは大きな問題だと思います。そういう人達をどう誘ったらいいかということが課題なんですけど、なかなか解決できないのが現状なんです。

山中委員：いやぁそうですか。他館の話聞きまして一応は納得しました。ここまで来られているのに、とてももったいないという気がどうしてもするのですね。もし何かございましたら。

岩本副館長：「博物館に行こう」ということで来られて、無料ゾーンだけで帰られる方は少ないと思います。博物館がある大仙公園は、市民の方の憩いの場となっておりますので、例えば休日に親子で公園に来られて博物館があると、そこで入口に入られて、たまたま無料ゾーンとか休憩コーナーがあるので「博物館に行こう」ということではなくて、ちょっと休憩に訪れる方も多く、特に土日は多いと思います。入館料を払わなくてちょっと時間を過ごされる方が多いという、これが数字に反映されていると思います。

山中委員：わかりました。できるだけ、ここまで来られた方々を館の中へ誘い入れるような何か工夫を、これだけ来られている人数が何かもったいないという気がどうしてもします。

会長：他にございませんか。

土橋委員：資料のことで、いま来館者数に関するご質問があったんですけど。私は無料ゾーンのところ、1月の欄が0で観覧者数がおられるのが何故かな?という素朴な疑問なんですけど、2月からは茶室だけで他は休館されているのでそうかなと思ったんですけど、1月の無料ゾーンだけが0というのはカウントのやり方が違うのでしょうか。

課長：1月はリニューアルのために常設展示場を完全に閉鎖しております、ただ1月は教育普及展「むかしの暮らし」のみを企画展示室で開催し、無料開放をしております。ですから、来館される方は全て無料の来館者と言うことにしております。以上でございます。

会長：他に。無いようでしたら次の案件の博物館リニューアルの評価でございます。概要説明・展示解説、これは展示を見てからでしょうか。

課長：先に概要を説明させていただきましてそれから展示をご覧いただきたいと思います。

会長：はい、わかりました。そしたらよろしく願いいたします。

課長：それでは、博物館リニューアル評価ということで後ほど展示をご覧いただきますが、その前に概要だけを少し説明いたします。今回のリニューアルに関しましては、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を受けまして、これを取り巻く大仙公園・博物館の北側に百舌鳥古墳群ビジターセンターを設置し、そちらは古墳のゲートウェイとして、魅力を体感していただける施設としまして昨週に開館いたしました。そして博物館に関しましては、その古墳につつまして実物資料などを基に学術的な視点で紹介して、来館者により深い知識をもって満足していただけるような展示をするために今回のリニューアルを行い

ました。具体的には、常設展示場の古代展示エリア、そしてこれまでVR体験を行っていました中庭に面したエリアを「文化遺産展示室－未来へつなぐ－」というタイトルを名付けまして新しいスペースとしました。そして、地階エリアは「わくわく体験フロア」という名称にしました。中庭のエリアには実物の（古墳）葺石のハンズオンを置き、一部パネルなどで世界の三大墳墓との比較などをしております。地階フロアは今まで通りハンズオンなどのパズルなどを置きますが、世界遺産や堺の歴史などを子供たちに解り易くイラストなどを交えた年表などをパネルにしてご覧いただけるような展示を行いました。以上でございます。

それでは、実際にリニューアルした展示をご覧いただきます。よろしくお願いいたします。

会長：それでは、今からリニューアルした部分を観覧していただきまして、改めてここに集っていただいて評価に関しての意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

司会：それでは事務局からの方から これから見学していただきますが今日は開館日で一般のお客様がいらっしゃいます。そこでワイヤレスマイクを用意しています。その着装の方法を説明いたしますので、前の方に来ていただいてワイヤレスマイクを着けていただけたらと思っております。

館長：ここで動作を確認した後に展示場へ移動してください。

－展示場へ移動してリニューアルした展示などを見学－

会長：よろしいでしょうか。白神さんの絶妙な解説をいただきまして普段味わえないような気分で見学をいたしました。前回の協議会では複製品についてさまざまなご意見をいただき、リニューアルでは複製品を有効に展示していただいております。特に仁徳天皇陵古墳の馬形埴輪の復元が目玉のひとつになるかと思っております。あまりにも白神さんの解説が素晴らしくて、全ての魅力を語り尽くしていただいたので、あまり言うことはないかもしれませんが、委員の皆様には忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。まず、谷委員何かございませんか。

谷委員：本当に解説が行き届いて、微に入り細を穿ってよくわかる解説をしていただいて、ただただ感心して聞いていただけですけど、一言感想と言うことで、驚いたというのは仁徳陵とクフ王のピラミットと始皇帝の陵墓の比較、ああいった実寸、同じ縮尺ですけども並べられると、改めて仁徳陵と言うのは大きかったんだという、そういう印象を持ちました。

会長：ありがとうございました。伊藤委員何かございませんか。

伊藤委員：解説付きで展示を拝見したので、十分解り易かったと思っております。ただ、違った観点では感想があります。ひとつは地震対策の関係ですけども古墳群の大きな縦長のパネルをピクチャーレールから2点吊りで吊り下げているものが何ヶ所かありますが、地震時のことを考えると振れ留めなどの対策をした方が良いのではと思って拝見していました。それからもう1点はリニューアルの直接の対象ではなかったと思っておりますが、地下ホールの無料エリアの年表の手前の所に触れる土器パズル等が、既存のものがそのままあったのですが、車椅子の方があれを使おうと思うと正面から入っていくと、パズルの台が箱になっているため足が入らないとか邪魔になって90度回転して横向きからしか触れられないという風になるではないかと思っております。で、車椅子を考えると今後あの土器パズルの台を、立体の箱ではなくて車椅子の方が正面から入っていけるような、そういう隙間のある台にされたら触り易くなるのかなという感じがしました。気づいた点と言うことで、以上です。

会長：ありがとうございました。とくにパズルのところで車椅子に関する配慮を館としても考えていただければと思います。それから地震対策についてはどうですか。博物館の方で対策をされていますか。

課長：今回のリニューアルでは考えられていませんでした。確かに伊藤委員からご指摘があって、そのあたりの配慮が欠けておったかなということでございますので、今後は考えていきたいなと云う風に思いました。

会長：よろしく願いいたします。山中委員何かございませんか。

山中委員：白神さんの名調子に酔ってしまいまして、特に問題と言いますか見落としてしまっています。しかし、リニューアル以前と比べて一見パネル等はシンプルな感じにされていて、しかし物自体はすごく見栄えのするような複製を十分生かされた形で展示をしているような感じがしました。まだまだ家形埴輪など飾っているだけで説明というか、ぱっと眼にはいるような説明がないというような感じがありますけど、それでも複製も含めまして物自体に目が惹かれると感じがしました。

会長：それでは、森委員。

森委員：全体的にユニークな感じで興味を持ちたいと思う、誘導されているなという感じがいたしました。おそらくコロナの関係で来館者自体も少なくなっているかと思しますので、見所が満載だと思うので、その切り取った部分をDVDか何かでフェイスブックだとかインスタグラムとかに1分くらいの短い映像・CM映像を流されたり、堺市博物館に行ってみよう、こんなものがあるよというCMをされたら、きっと若い人たちも見に来るようになるのではないかと思います。ぜひ見ていただける映像になると思います。

また、展示場に行きながらいろいろなパンフレットをいただいたのですが、英語・中国語・韓国語のパンフレットが用意されていて親切に配置されているなという気がいたしましたし、非常に見易いと思います。小さいお子様の「古墳すごろく」というゲームがあって、これは小学生が喜ぶなというふうに思って見ていました。これは私の一押しです。はい、以上です。

会長：ありがとうございました。館としてDVDというか、短く見所を纏めたような形での発信をしたらどうかということでございます。われわれは白神さんの名調子で十分見所を堪能しましたけれども他の方はなかなか白神さんが付いてもらえるようなことはないと思いますので、ぜひその見所を発見ということで、何らかの形でアプローチしていただけたらと思いますがよろしく願いいたします。それでは、土橋委員お願いいたします。

土橋委員：今日は非常に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございます。本当に丁寧な解説をしていただいたので、短時間の間に非常に効率よく見所を経験できて良かったかなと思います。全体の印象としては全体的に明るいと言いましょか、たぶん展示の説明パネルの色調とかの関係かもしれませんが、割と軽やかなというようなイメージがありました。なんとなく博物館というと荘厳な感じがあったのですが、こういう展示、説明の仕方だと若い方に受け入れやすいのかなと思いました。今日は開館日ということで一般の方が来られていて家族連れなども来られていたので、ちょっとびっくりしました。平日では割と高齢者の方が多いかなというイメージだったのですけれども、今日は金曜日ですよ、お仕事お休みの方かもしれないが来られていて、すごくリニューアルされたことに対して地元の方々の期待が大きいのかなという印象を持ちました。それと説明の所、今日お借りしたイヤフォンガイド、新兵器ということでしたけど一般の方にも貸し出しという形になるんでしょうね。それぞれのポイントには番号が付いたイヤフォンガイドのマークがあったので、あれを使って解説を聞かせていただけるの

かなとお尋ねしたいのですが、感想だけですけど以上です。

会長：どうなんでしょうか。貸出のDVDは白神ワールドではないのですよね。

土橋委員：番号が付いていただけなので、オーディオガイドですよね。

課長：今日とは別に多言語の音声ガイドがありまして、あの番号で、以前に体験していただいたと思います。今日とは別で、今後は例えば企画展の展示品解説だとかボランティアさんの解説であるとか、そういったところで今日のワイヤレスガイドに関しては使っていきたいと考えております。以上です。

会長：それでは最後になりますけど岩間副会長どうでしょうか。

岩間副会長：本当に懇切丁寧にご説明していただいて、とても楽しかったです。そうですね。よく集めて苦勞された企画、それから新しい展示だったなと思いました。土師器、須恵器ですかね。左から右に新しくなっていくという大きなケースの展示がありましたけれど、本当に物で年代を追っていくという正に考古学の真骨頂だと思いました。一方でもう少し色の変化をつけて、ここところが5世紀代だよ、6世紀代だよという風に一目で解るような工夫があってもいいかなと。例えば敷物の色を変えるとか、プレートの色を変えるとかしてはどうでしょうか。少しおとなしい展示だったように思いました。それと逆に最後の方に甲冑がずっと並んでいる展示がありました。敷物と言いましょか、置いてある台に色があり、甲冑も少し色が付いているということもありまして、変化のある展示だったなと思います。最後の企画展の所ですけど広開土王碑の4面に幕を張って拓本を展示していました。あれは、なかなか上手い展示だなと思って感心しました。それから天井からスライドで床に照射していて、あれも変化があって面白い展示だったのですが、ただ何を表現しているのかがちょっと直ぐにはわかりにくかったので、その説明がもうちょっと詳しいと有難いと思いました。最後の壁に何か銘のある剣ですね、これもヒラヒラした幕が垂れていたのでああいう華やかさも企画展では必要ではないかなと思いました。私は40年前に学芸員をしておりましたけれども最後の部屋の壁のクロスが古びていたなと思いました。今後これが新しくなると部屋全体がたぶん明るくなると思います。それを期待しています。以上です。

会長：ありがとうございました。各委員から全体的な展示の問題、あるいは岩間副会長のように施設の問題などいろいろとご指摘がございました。事務局としても今の件を参考にされてますますいいものにしていただければと思います。他に何かございますでしょうか。特に展覧会。

岩間副会長：芝生の中庭は何に利用されようと考えられていますか。

課長：現在のところでは、計画はなくて。中庭と展示の所を頻繁に往復するようなことがあると虫などの環境的な問題がありますので、それでなかなかできないというところがあります。確かに勿体ないというか、まあ空間としてあってもいいかといろいろな要素がありますので、長年の課題でもありますけど今後も継続して考えていきたいと思えます。企画展によっては中庭を展示の一環として利用したりすることもありますけど、常に使っているという訳ではございません。今後も永遠の課題です。以上です。

会長：ありがとうございました。その他に何かございませんか。無いようでしたら後は特別展「海を越えたつながり」の解説見学する予定もあるようですが、時間の許す限りご覧いただければと思います。とりわけ現在の所コロナ禍のために海外特に韓国との自由な交流が出来ないこともあって担当者の方が非常に苦勞されたと思えます。残念ながら韓国から品物は来ていないのですが、それを補って余りあるだけの日本の資料の展示がございませし、あるいは先程岩間副会長がご指摘された広開土王碑の展示とかございませ。これは見てからの楽しみということで、どうぞお時間の許す限りお楽しみいただけたらと思えます。

これで第2回博物館協議会の議事に関しては、お預かりしたものを事務局にお返ししてこれで終わりたいと思います。よろしくお願いいたします。

司会：それでは委員の皆様には、長時間にわたるご協議まことにありがとうございました。本日委員の先生方から頂戴しましたご感想やご意見ご提案を踏まえまして、また堺市博物館のあり方について検討して良き方向に進めて参りたいと思います。それでは、閉会にあたりまして須藤館長よりお礼のご挨拶を申し上げます。

館長：本日はありがとうございました。とくにリニューアルに関しましては、まだ1週間も経っていないホヤホヤの展示をご覧いただきまして、白神さんの語りに皆さん「うっとり」されていて、物をどこまで詳しく見ていただけたか、どこまで対話していただけたか一抹の不安はありますけども、まあ明るく見易い、そしてシステムティックな展示が今回は実現できたかなと思います。今日のお話の中でもバリアフリーですね、身体障害者に対する留意が、今のところは私達スタッフの間でも共通の認識がなされていません。先程指摘されましたように地階のパズルへのアクセスにしても、その他の所についても段差があったりするところもございますので、今後は早急に改善しないと時代遅れの博物館になってしまいますのでご意見ありがとうございました。それから、皆様が褒めていただいた展示を外に向かって広報をどうするのかというご意見もございましたので、当館もHPや他の手段を用いながらオンラインでの動画配信もおこなっていますので、どういうコンセプトで媒体を作って外に出すかということを検討し、いつか作って宣伝していきたいとかがえております。ありがとうございます。

そういうところで暫くは展示で多くの方々に来ていただくことを、これからも私たちは努力していきたいと思います。

最後になりますけれども、この6月に協議会の委員の任期が満了になりましてご退任される先生方がおられます。それでご退任される7名の先生方には長年にわたりまして本館の活動に対してまるで我がことのように本当にご支援ご協力それからコメントを下さいまして、心から感謝いたしております。それから本日の委員会が最後の委員会になりますので先生方が一緒に集まると言う機会がもうありませんので、ここに本館全職員スタッフを代表しまして衷心から退任される先生方に感謝の意を表したいと思っています。本当にありがとうございました。

今後ともこの縁を切らずに何かありましたら堺市博物館のことを頭に浮かべ、時には足を運びいろいろとご協力を今後ともお願いしたいと思います。本当に長いことありがとうございました。

司会：ありがとうございました。来年度の協議会につきましては事務局より改めて日程調整をさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。また、お時間の許す委員の先生方におかれましては特別展「海を越えたつながり—倭の五王と東アジア—」の展示解説を学芸員が行いますのでご高覧下さい。事務局の職員が案内しますのでよろしくお願いいたします。それと大仙公園の道向いに百舌鳥古墳群ビジターセンターが3月13日にオープンしています。ここは午後6時まで開館しておりますので入場無料になっております。もしもお時間がございますらお帰りの際にお立ち寄りいただければ幸いです。それでは、本日は本当にありがとうございました。